



# コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

## 歯科系学生さん来訪 コープはまるで 歯科のテーマパーク

8月28日、29日の2日間、歯科学生向けのゼミナールを開催しました。この企画の目的は歯系学生の人材獲得です。歯学生、歯科衛生士学生、歯科技工士学生ら23名が参加しました。そのうちコープリハビリテーション病院見学を紹介しします。

芝居風にまとめた資料を用いて学生に分かりやすく説明しました。しつかり噛めるということがどれだけ大切か伝えられたと思います。また実際に歯科ユニットで患者さんに治療している状況も見学してもらい歯科医師・歯科衛生士からもアドバイスももらっていました。

玉島歯科診療所 歯科医師 安井 佑輝



1階歯科外来

1階歯科診療室では、なぜリハビリの病院に歯科があるのか、医科と歯科の連携がいかに重要か、歯科の介入によりリハビリにどのような影響を与えられるのか、などを紙

「アトラクション1階」  
歯があつてこそ



安井歯科ドクターが紙芝居で建物紹介



反復唾液のみテストで実際に飲み込みを体験する様子

コープリハビリテーション病院 言語聴覚士 江田百合郁 赤木 綾子

実際に反復唾液飲みテストを体験してもらいました(写真)。参加者の皆さんは2回以上飲み込むことが可能でしたが、後半になると飲み込むペースが落ち「疲れた、しんどい」などという声が上がりました。また、患者・利用者さんが食べている嚥下食を食し、常食のおいしさを実感してもらいました。ペーストやムースの独特の食感には驚いており、義歯でしっかりと食事を摂れることの大切さをより感じたようでした。

「アトラクション2階」  
おいしく食べて



山田師長が紙芝居で回復期リハ病棟での歯科の大切さを説明

コープリハビリテーション病院 看護師 平塚裕香利 山田小百合

最初に「建ものまるごと歯科が輝く」のテーマで紙芝居を作り、回復期リハ病棟での歯科介入、主に口腔ケアにより肺炎予防、経腸栄養から経口摂取への実績数などの説明を行いました。その後、昼食時にST(言語聴覚士)や看護師など患者さんの食事に関わっている所を見てもうりました。食事形態はもちろんです、患者さんにとの課題があり介入しているか、食事環境を整える事はもちろん、義歯調整や嚥下状態などST・歯科が入院時より早期に介入することにより自宅で食べられる食事形態へアップすることが出来ている事を伝えました。入院中に歯科治療を行い義歯作成、口腔ケアで肺炎予防。これからも歯科との連携は欠かせないという事が伝わったのではないのでしょうか。

「アトラクション3階」  
健やかに暮らせる



歯科集団の記念撮影

ご協力いただきましたコープリハビリテーション病院スタッフの方々、本当にありがとうございました。玉島歯科診療所 事務長 下元 武

感想  
参加学生の感想は「機能回復が想像以上」「歯科と医科の融合があれ程の効果をもたらすことを改めて実感」「実際に診療しているところを見て、プロの衛生士さんの技術や丁寧かつスピードの速さ驚き」「早く立派な歯科衛生士になりたい」などうれしいコメントを頂きました。

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。

